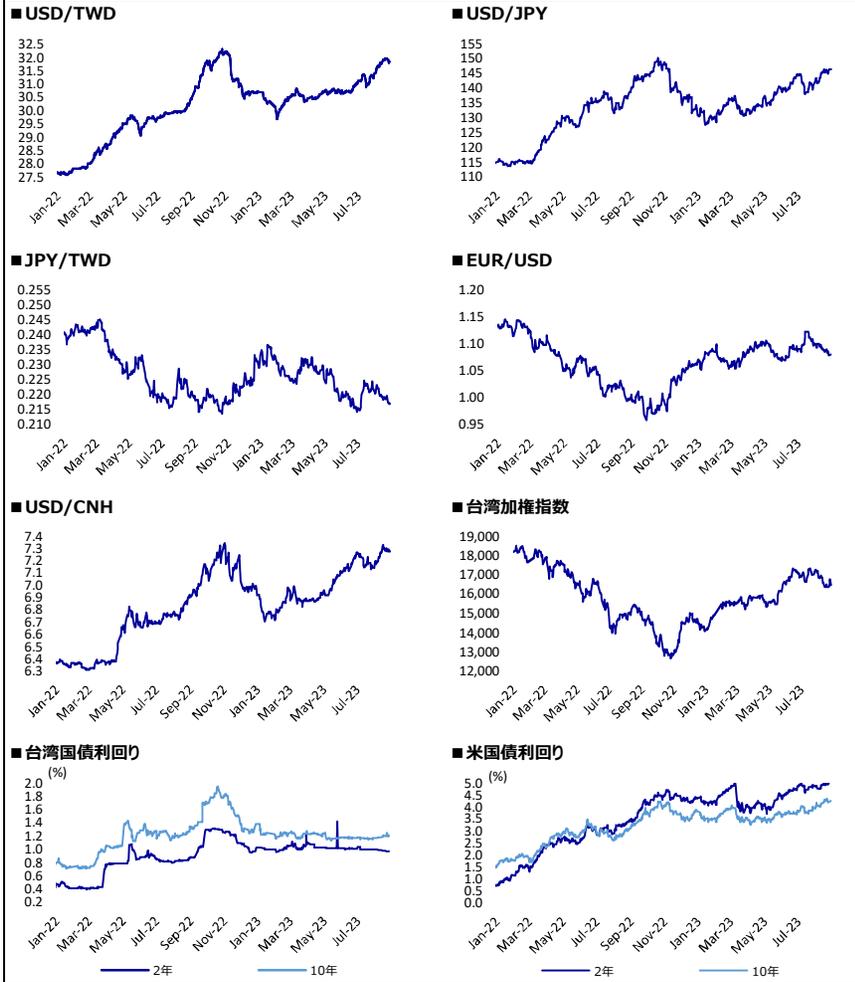


市場動向



先週の市場動向

**■ USD/TWD**  
先週のドル/台湾ドルは下落。週初8/21は31.925でオープン後、台湾株が堅調に推移し、台湾ドルが買われる場面もあったが、人民元安の流れや外資が資金流出させると一時31.984まで上昇した。8/22も台湾株が上昇すると下落するも、底値は堅く、31.9台前半で推移。8/23も堅調な台湾株の推移につれて台湾ドルは買われたが、31.9台を割り込むことはなかった。8/24は米半導体大手の好調な決算を受けて台湾株が寄り付きから急騰すると海外資本の流入が続き、じりじりと下落すると一時31.750まで下落。下値では輸入企業のドル買いも見られ、31.7台後半に戻した。8/25は前日に急騰した台湾株が大幅下落すると、31.8台半ばまで上昇。その後は輸出企業のドル買いにより下落する場面も見られたが、外国人投資家の台湾ドル売りが次第に優勢となり、最終的には先週比0.3%ドル安台湾ドル高の31.850で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は8.6億台湾ドル。

**■ USD/JPY**  
先週のドル/円は上昇し、年初来高値を更新。週初8/21は145.41でオープン後、中国の利下げ発表を受けてドル高人民元安となると、ドル円もつれ高に。ジャクソンホール経済シンポジウムを前に米金利の上昇もあり、146円台半ばまで続伸した。8/22は、日銀総裁と首相が会談とのヘッドラインを受けて円が買い戻され、145円台に反落。その後は米金利動向につれ上下するも、145円台のレンジで推移。8/23は欧米の8月PMIが総じて予想より低水準であったことから米長期金利が低下し、ドル円も売られ、一時144.55まで下落。8/24はアジア株が堅調に推移すると円売りが先行し、145円台に戻した。その後は米新規失業保険申請件数が予想より良好な内容であったことから、146円手前まで上昇するも、翌日にパウエルFRB議長の講演を控え様子見ムードが強まり、145円後半で推移。8/25はパウエルFRB議長の講演を控え、146円台前半で推移。講演が始まると、追加利上げについての言及を受けて上下する場面が見られたが、講演後は米金利が上昇し、ドル買いが優勢となり、一時146.64と年初来高値を更新。その後は週末を控え、伸び悩み、最終的に先週比0.7%ドル高円安の146.45で先週の取引を終了。

今週の見通し

**■ USD/TWD** 予想レンジ：31.700-32.000  
今週はレンジでの推移を見込む。米金利が高止まるとの見方から資金が流出しやすい一方、月末週であり、輸出企業のドル売りも想定されることから、揉み合う展開となるであろう。

**■ USD/JPY** 予想レンジ：145.00-147.00  
今週は底堅く推移すると見込む。先週のパウエルFRB議長の講演には目新しさはなかったものの、米金利の高止まりが意識される一方、日銀が緩和政策を維持するとの見方から改めて金融政策のスタンスの違いが意識され、ドルが買われやすいであろう。なお、今週は米雇用統計等重要な経済指標が相次いで発表されるため、その内容で上下する展開には注意したい。

今週の予定

8/28 (MON)	
8/29 (TUE)	米8月消費者信頼感指数、米7月JOLTS求人数
8/30 (WED)	米Q2GDP改定値、8月ADP雇用統計
8/31 (THU)	米7月個人所得・支出
9/1 (FRI)	台湾8月製造業PMI、米8月雇用統計、米8月ISM製造業景気指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。